

行田市 文化財保存活用 地域計画【Web概要版】

行田市教育委員会



行田市文化財保存活用地域計画とは

本計画は、本市全体の様々な文化財を総合的・一体的に
保存・活用し、豊かな暮らしと未来をひらくための
基本方針と**行動計画**である。

文化財保存活用地域計画は、市町村における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画です。市町村の総合計画の下に体系づけられ、文化財保護行政の中・長期の方向性を示すマスタープランと短期に実施する具体的な事業を記載するアクションプラン、両方の役割を担います。地域の歴史や文化にまつわるコンテキストに沿って多様な文化財を俯瞰し、総合的・一体的に保存・活用することにより、地域の特徴をいかした地域振興に資するとともに、確実な文化財の継承につなげることができます。

この計画を作成・実施することにより、住民・民間団体・文化財部局・庁内関係部局などが地域総がかりで文化財を守り、いかし、伝える体制の構築を図り、文化財の存続につなげていくことが期待されています。

(「地域総がかりで作る文化財保存活用域計画-歴史文化で―魅力ある地域へ―」 文化庁2022)

- 令和7年7月18日 認定
- 令和7年7月18日現在で210自治体の文化財保存活用地域計画が認定
(埼玉県 9自治体)

計画の背景と目的

- 本市は、古代から近代に至る数多くの文化財が遺されている。平成29年(2017)の日本遺産「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」認定を契機に、文化財を観光振興や歴史的景観に活かすまちづくりへの取組の重要性が増してきた。
- 文化財の保存と活用のための様々な取組は、歴史文化の継承とそれを活かしたまちづくりを主題としており、中長期的な視野のもと、本市の他の計画と取組ごとに有機的なつながりをもって事業を進めていくことが重要である。
- 本市においても少子高齢化や人口減少が進んでおり、地域のコミュニティ意識の希薄化が危惧されている。「文化財の防災」や「文化財の防犯」についても改めて対策をとる必要がある。
- 文化財を積極的に活用して、新たなまちづくりや地域活性化につなげることへの期待は今後も高まっていくと考えられる。
- 国は、これまで価値付けが明確でなかった未指定を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことを目的として文化財保護法を改正、平成31年(2019)4月に施行した。
- 埼玉県は、令和2年(2020)3月、すべての県民が地域の文化財等と触れ合う機会を増やし、その価値を知って地域に愛着と誇りを深めるとともに、地域総がかりで文化財の適切な保存・活用の促進を目指し「埼玉県文化財保存活用大綱」を作成した。

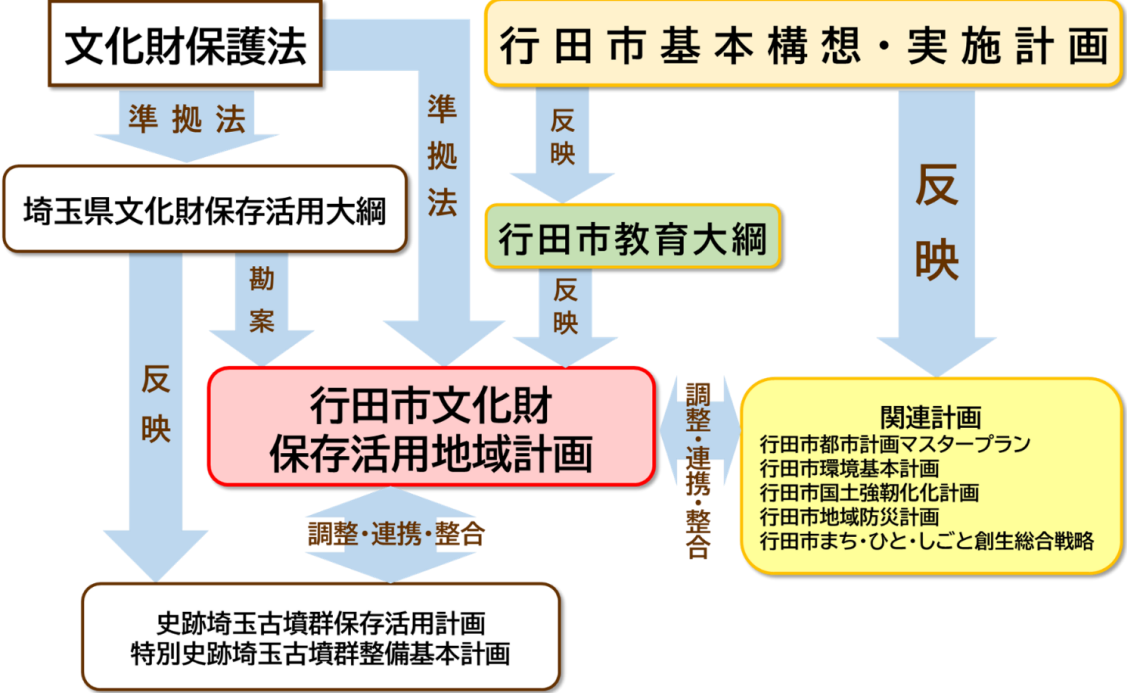
国・埼玉県の動向を鑑みて、本市は、文化財に関する現状を分析し、浮かび上がった課題を克服し、適切な文化財の保存と活用を行うことを目的として行田市文化財保存 活用地域計画を作成した。

計画期間

本計画の計画期間は、中長期的な視点を持つことを重視し、前期・中期・後期の10年間からなる。

計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第183条の3に位置づけられた文化財の保存・活用に関する総合的な法定計画であり、令和2年(2020)に策定された「埼玉県文化財保存活用大綱」を勘案して作成した。さらに「行田市基本構想・実施計画」や「行田市教育大綱」を反映させるとともに、本市の歴史文化に関わる様々な分野の個別計画との調整、連携及び整合を図る。



令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)	令和14年度 (2032)	令和15年度 (2033)	令和16年度 (2034)
前期				中期			後期		

行田市の概要

【緯度・経度】北緯36度08分20秒
東経139度27分20秒

【面積】67.49km²

【海拔】市庁舎付近で19.7m

【人口】約7.8万人

市域の北側を流れる利根川と、南側を流れる
荒川という二つの大河川に挟まれている



行田市の文化財

指定文化財 106件
未指定文化財 72,947件把握

指定等文化財件数一覧表(令和7年3月現在)

種類	分類	国		県	市	総計
		指定・選定	登録	指定	指定	
有形文化財		4	6	14	46	70
	建造物	0	6	1	7	14
	美術工芸品	4	0	13	39	56
	絵画	0	0	1	5	6
	彫刻	1	0	3	7	11
	工芸品	0	0	1	5	6
	書跡	0	0	0	3	3
	典籍	0	0	1	1	2
	古文書	0	0	0	4	4
	考古資料	3	0	6	5	14
	歴史資料	0	0	1	9	10
無形文化財		0	0	0	1	1
民俗文化財		1	0	1	6	8
	有形の民俗文化財	1	0	0	1	2
	無形の民俗文化財	0	0	1	5	6
記念物		3	0	8	16	27
	遺跡(史跡、旧跡)	3	0	8	4	15
	名勝地(名勝)	0	0	0	0	0
	動物、植物、地質鉱物(天然記念物)	0	0	0	12	12
	文化的景観	0	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	0
総計		8	6	23	69	106

0:該当なし ー:制度なし

行田市の歴史的特徴

1 水と地形が織りなす生活環境

本市は、利根川・荒川の他、市域に星川・忍川が流れ、荒川扇状地の末端にも位置する水利に恵まれた土地柄である。中世の成田氏による開発以来、江戸時代を通じて穀倉地帯として発展してきた。
しかし、こうした豊かな水の恩恵は、同時に排水の重要性和表裏一体でもある。この地に暮らす人びとは、農法の工夫や排水路の整備などにより、水とともにこの地で生き抜いてきた。

3 城郭・武家地の歴史が息づくまちなみ

広大な沼地である忍沼に、成田氏によって築城された忍城。江戸時代になると、大名家臣団が城下町に住むために手狭な武家地の拡充が行われた。文政6年(1823)の国替後には武家地不足が深刻化、区画のための細い裏通りなど、市街地中心部に現在も残る複雑な城下町の構造が当時の苦勞を物語っている。

5 利根川の自然堤防から始まった足袋のまち

利根川の自然堤防上では、足袋の原料となる木綿(綿花)の栽培が戦国時代頃から始まっていたと考えられる。江戸時代になると忍城下・行田町には足袋屋が増え始め、18世紀半ば以降には「忍のさしたび名産なり」とうたわれるようになった。近代には、足袋産業が基幹産業としてまちのインフラ整備を支え、「足袋の行田」が市名の由来ともなった。

2 河川交通に育まれた古墳文化

古墳時代前期、利根川と荒川の流路変遷によって育まれた豊かな自然と肥沃な土地に人びとが集落を営み始め、古墳の築造が始まる。埼玉古墳群をはじめ、現在まで姿をとどめる古墳と発掘調査によって確認された古墳を合わせ、現在約197基の古墳が確認されている。これらの古墳や集落は市内を走る大小の河川沿いに発展し、活発な河川交通により広域に文化交流が行われた。

4 忍城主の国替が生んだ重層的な寺社の造営

市域には、多くの寺社が所在している。成田氏が忍城を築いて以降武家の庇護を受けた寺院は、忍領内に末寺を展開、地域の信仰に深く根付いていった。江戸時代、国替で領主が新たに入府するたびに各家が城下に寺社を創建、結果として多くの寺社が重層的に展開することとなり、まちの歴史文化の一端となっている。

【日本遺産】「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」

平成29年(2017)4月 認定

忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現す。

行田足袋の始まりは約300年前。

武士の妻たちの内職であった行田足袋は、
やがて名産品として広く知れ渡り、

最盛期には全国の約8割の足袋を生産するまでに発展した。
それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。

今も日本一の足袋産地として
和装文化の足元を支え続ける行田には、
多くの足袋蔵等歴史的建築物が残り、
趣きある景観を形づくっている。



【未指定文化財】

- 教育委員会により調査が行われた石造物や古文書・歴史的建造物・民俗行事等
- 埋蔵文化財発掘調査、博物館事業に伴う調査により把握された文化財
- 忍城の城下町であったことが影響し、旧家臣の家に由来する古文書や歴史資料が多く確認されている。
- 足袋産業関連の建造物は、指定・登録の文化財と同じく現在も店舗などに活用されている事例がある。

文化財の保存・活用に関する将来像へ向けて

【目指していく将来像】

市域の文化財を自分たちの手で活かしながら未来に伝え、
豊かな暮らしと地域の文化を創出する

そのために……

行田市民全体で進んでいく4つの方向性

方向性 1 文化財を把握する

文化財への視点を確立し、市(行政)と市民が一体となって把握に努めます。

方向性 2 文化財を守り伝える

文化財を適切に保存し、情報を発信することで未来に伝えます。

方向性 3 文化財を活用する

文化財の新たな魅力を掘り起こし、自分たちの手で豊かな暮らしに活かします。

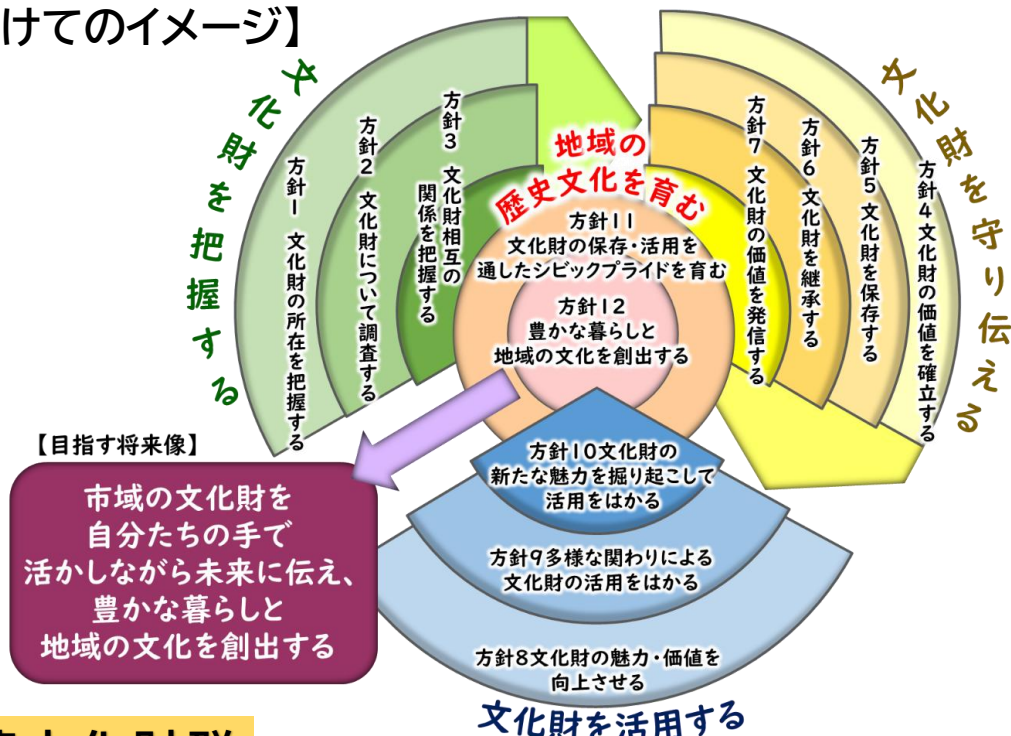
方向性 4 地域の歴史文化を育む

文化財の保存・活用を通じてシビックプライドを醸成し、地域の文化を創出して
いく土壌を育みます。

4つの方向性における現状と課題を考え、**12の方針**を定め、
これらの方針に基づく取組を実施していく。(5頁参照)

これまで本市で培われてきた地域の特色及び魅力を示す歴史文化の視点から、
それぞれの特徴に関連した文化財によって構成される**関連文化財群**と
また、文化財群を核として文化的な空間を創出する**文化財保存活用区域**を設定

【将来像へ向けてのイメージ】



関連文化財群 (6頁参照)

- (1) 水がもたらした富・苦難・知恵
- (2) 多様な文化交流が展開される古墳文化
- (3) 忍城主成田氏の歩みと領域

関連文化財群が織りなすストーリーは、互いに重なり合う部分を持ちながら本市全域を一つの歴史文化としてまとめ上げる。

文化財保存活用区域 (7頁参照)

「武士のまち」から「足袋のまち」へ

本市の魅力を発信する核となる。
文化財の一部は構成文化財として「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として日本遺産に認定されているストーリーを形成

目指す 将来像	方向性(1~4)	現状と課題	方針(1~12)	取組(No.1~No.85)
	「将来像」へ むかうために	「将来像」へ向かう 「方向」にある現在	「方向性」に基づき、「現状と課題」を分析、 前進するために必要なこと	「現状と課題」に対応し、「方針」に基づいて行う措置 ※一部を例示

市域の文化財を

自分たちの手で活かしながら未来に伝え、

豊かな暮らしと地域の文化を創出する

1
文化財を
把握する

- 文化財調査の成果のデータ化・リスト化が未完了
- 過去の調査で把握された文化財の現状調査及び新規の調査が必要
- 文化財群としての認識の確立が必要

1 文化財の所在を把握する

2 文化財について調査する

3 文化財相互の関係を把握する

方向性 1-方針 1

No.3 「博物館資料データベースの充実」(継続)

未整理の収蔵資料を整理して、データベースを充実させ、容易に検索できるようにする。

取組主体

行政

取組期間

R7~16

2
文化財を
守り
伝える

- 指定文化財候補リストの作成と登録の推進が必要
- 近年の自然環境変化に対応した文化財への処置が必要
- 防災・防犯マニュアルの整備が必要
- 文化財収蔵施設の維持・確保が必要
- 文化財に関わる市民団体の活動支援体制づくりが必要
- 地域主体で文化財を守る意識の醸成が必要

4 地域の歴史文化を理解する

5 文化財を保存する

6 文化財を継承する

7 文化財の価値を発信する

方向性 2-方針 5

No.30 「文化財の防災・防犯マニュアルの検討・整備」(新規)

文化財に関する防災・防犯への対策を検討して、マニュアルを作成・共有化を行う。

取組主体

行政・文化財所有者・市民

取組期間

R7~16

3
文化財を
活用する

- 活用を前提とした文化財の修復・修繕・整備が不十分
- 博学連携の継続化が必要
- 文化財に関わる行政の各部局・民間団体・企業の連携が必要
- 文化財の新たな魅力の掘り起こしが必要

8 文化財魅力と価値を向上させる

9 多様な関わりによる文化財の活用をはかる

10 文化財の新たな魅力を掘り起こして活用をはかる

方向性 3-方針10

No.77 「歴史的建造物を利用した催事の支援」(継続)

忍城跡や古墳公園、足袋蔵など歴史的空間を場とする催事を支援し、文化財の活用を推進する。

取組主体

行政・市民・団体

取組期間

R7~16

4
地域の
歴史文化
を育む

- シビックプライドの醸成が必要
- 市民による文化財の保存・活用の活動を豊かにくらしと地域の文化が創出されるまちづくりへつなげていくことが必要

11 シビックプライドを育む

12 豊かな暮らしと地域の文化を創出する

方向性 4-方針12

No.84「行田らしい歴史文化を活かしたまちづくりへの支援」(新規)

行田市の歴史文化を活用した、市民による新しい文化の発信を支援します。(足袋産業を利用した事業、観光体験事業の展開など)

取組主体

市民・団体

取組期間

R14~16

行田市の関連文化財群

(1)水がもたらした富・苦難・知恵

利根川・荒川のほとりに生きる
豊かな水の恩恵と水害による苦難
この地で生きるために
編み出された知恵と重ねられた歴史
水と人々の付き合いを示す文化財群



下中將の獅子舞

(2)多様な文化交流が展開される古墳文化

埼玉古墳群をはじめとする幾多の古墳と
人々の営みを伝える集落遺跡
古代の河川交通に運ばれた モノ・情報・文化
土の中から目覚め、語りかける文化財群



八幡山古墳石室



酒巻14号墳出土埴輪



金錯銘鉄剣

(3)忍城主成田氏の歩みと領域

忍城水攻めで知られる成田氏 中世以来、忍の水辺に息づく
ゆかりの社寺が示す信仰と文化
知られざるまちのはじまりを知る文化財群



鰐口

現状と課題

- 関連する歴史文化の風化を防ぐ
取組が必要
- 構成文化財の保存・維持管理
のための防災・防犯対策が必要
- 歴史文化を物語る景観の継承が
急務である

下中条の獅子舞(県指定無形民俗文化財)・忍名所図会(市指定有形文化財)・
辯天門樋(市指定有形文化財)・利根川川除普請裁許絵図・酒巻村絵図・小針落伏越・
須加村如来堂紀行 など 47件

方針

- 1 水に関わる伝承・資料の把握を行う
- 2 関連文化財の防犯・防災マニュアル
の整備を行い、保護体制を整える
- 3「郷土の風景の記憶」の共有・継承
を目指す

取組※一部を抜粋

No.(1)-6「利根川通り今昔地図」の作成(新規)

文化財の現状と所在把握を経て、景観復元図「利根川
通り今昔地図(仮称)」を作成する。将来的な市民の
「郷土の風景の記憶」の共有や継承に資する手立てを
講じる観点から、本図は地域住民の方々にも見てもらい
ながら、地域を象徴するイラストやキーワード等も積極
的に復元図に盛り込む。

取組主体	行政・市民	取組期間	R7～16
------	-------	------	-------

No.(2)-15「市民参加による古墳・史跡での催事 (継続)」

古墳フェスティバルなどの催事の開催により、古墳
文化への愛着を育み、市民主導の活動の場として古墳
史跡の活用を図り、保存への意識を育む。

取組主体	行政・市民・団 体	取組期間	R7～16
------	--------------	------	-------

No.(3)-2「史跡探訪 成田氏ゆかりの地を 歩こう」の開催(新規)

「成田氏ゆかりの地探訪マップ」を作成したうえで、
成田氏ゆかりの寺社・史跡を限定的に周遊する「史跡
探訪」を定期的を開催し、市民や来訪者等が直接文化財
の魅力や価値を理解できる機会を創出し続ける。

取組主体	行政	取組期間	R7～16
------	----	------	-------

- 発掘調査の適切な公開と、成果
のデータ化・リスト化が必要
- 本市における古墳文化の
全体像の提示が必要
- 周遊を促すための古墳・史跡を
めぐるガイドの整備が必要
- 古墳・史跡の保存と活用にお
ける市民参加推進が必要

武蔵埼玉稲荷山古墳出土品(国宝)・埼玉古墳群(特別史跡)・酒巻14号墳出土埴輪(重要文化
財)・小見真観寺古墳(国指定史跡)・八幡山古墳石室(県指定史跡) など 25件

- 1 発掘調査の成果の公開と利便化を図り、
全体像を理解し、発信する
- 2 埼玉古墳群を核とした古墳・史跡の
周遊を促す
- 3 古墳・史跡の保存と活用における
民参加を推進する

- 成田氏と地域の関わりを示す
文化財の周知が十分でない
こと

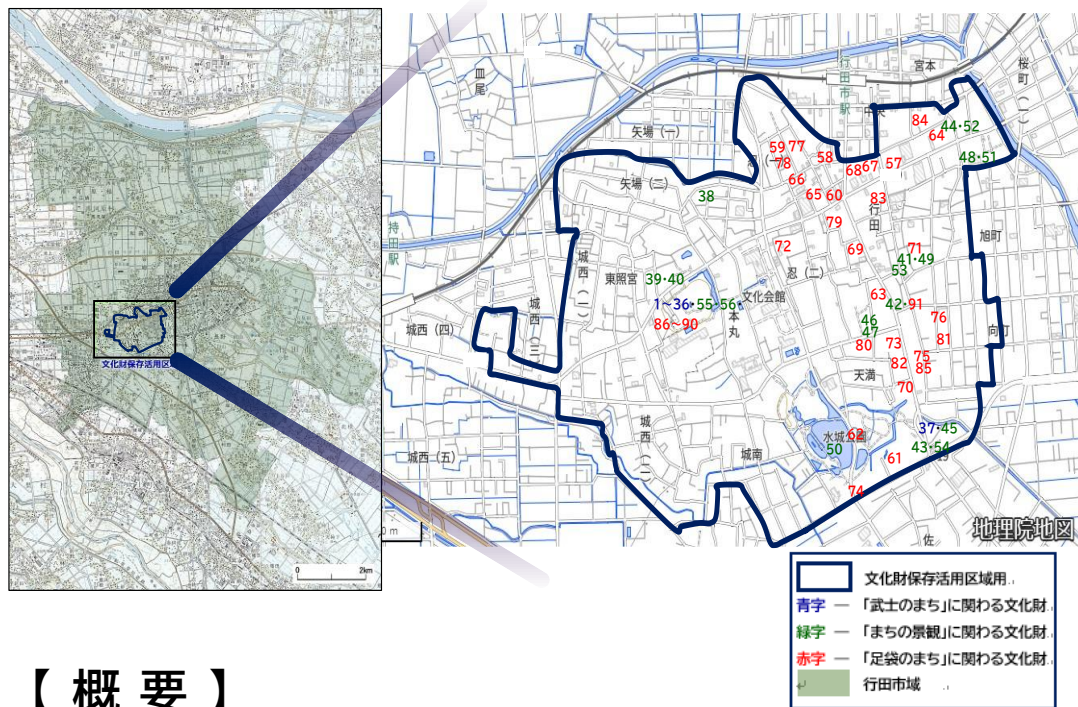
- 1 成田氏の関連文化財群・地域との
関わりを周知する

木造聖徳太子立像(重要文化財)・成田氏長判物(市指定有形文化財)・鰐口(市指定有形
文化財)・正木丹波守墓・春日神社・長久寺・長善沼・中条堤 など 20件

行田市の文化財保存活用区域

「武士のまち」から「足袋のまち」へ

「日本遺産」のストーリーが展開する「足袋のまち」
「武士のまち」から時代とともに変貌を遂げた
この地区から行田の歴史と文化を発信します



【概要】

室町時代から明治時代初期の忍城を中心とした「武士のまち」は、時代の変化にともない、商人や地域の名望家たちによって城下の町人町を中心に「足袋のまち」への変貌を遂げた。一見すると、「武士のまち」としての面影が薄く感じられる本市の市街地だが、それは急激に「足袋のまち」へと生まれ変わったことに由来する。このことから、区域は、城郭と武家地・町人地を含む広い意味での忍城・城下町の範囲及び足袋蔵等の近代の歴史的建造物の分布密度が濃い区域とする。

(参考:「行田地域の足袋蔵等の保全・活用のための調査と提案報告書」

(埼玉県・ものづくり大学))

【区域の文化財】

この区域を構成する文化財は、以下のように区分することができる。忍藩士の活動や城下町に関わる「武士のまち」に関わる文化財、足袋蔵など歴史的建造物を中心とする「足袋のまち」に関わる文化財、そして両者の時代に共通した景観をなす社寺や公園、まちの区画にのこる名残などまちの景観に関わる文化財である。

これらの文化財群が融合し、共存する範囲を文化財保存活用区域として設定することで、歴史文化の特色に裏打ちされた、文化財のさらなる魅力創出につなげることが可能となる。

「武士のまち」に関わる文化財

No.1~37

忍城跡(県指定旧址)・文政六年忍城図、忍城の時鐘、藩学進脩館横額 など37件



忍城跡

「まちの景観」に関わる文化財

No.38~54

諏訪曲輪・行田八幡社・水城公園・行田西の市・樺群(市指定記念物) など17件



旧忍町信用組合店舗

「足袋のまち」に関わる文化財

No.55~94

行田足袋・旧小川忠次郎商店店舗及び主屋
旧忍町信用組合店舗(市指定有形文化財)・足袋蔵
まちづくりミュージアム(栗代蔵) など40件

【現状と課題・方針・取組】

現状と課題	方針	取組 ※一部を抜粋				
□ 「武士のまち」としてのまちなみが分かりづらい	1 「武士のまち」の認識を促す	No.7 歴史的建造物の活用支援 歴史的建造物等の改修・利活用を補助する制度を継続的に予算化し、所有者と利活用者のマッチングを図り、公開活用を積極的に進める。 <table><tr><td>取組主体</td><td>行政・文化財所有者</td><td>取組期間</td><td>R7～16</td></tr></table>	取組主体	行政・文化財所有者	取組期間	R7～16
取組主体	行政・文化財所有者		取組期間	R7～16		
□ 歴史的建造物の保全のために、多様な立場の人々の間での情報共有と連携の構築が急務である	2 歴史的建造物を再活用することで保全を図る					
□ 城下町からつづく「足袋のまち」としてのまちなみが失われつつある	3 まちづくりに歴史的な景観の視点を取り込む					
□ 観光資源として活用するためのルートやガイドの整備が必要	4 足袋のまちをガイドできる人材育成と散策ルートの整備を行う	No.12 ぎょうだ蔵めぐりまちあるき 現在は非公開の足袋蔵で、着物での参加者に特典を付ける足袋蔵スタンプラリーや足袋づくり体験、藍染体験、ハンドメイド作品の展示・販売等を実施する。 <table><tr><td>取組主体</td><td>文化財所有者・市民・団体</td><td>取組期間</td><td>R7～16</td></tr></table>	取組主体	文化財所有者・市民・団体	取組期間	R7～16
取組主体	文化財所有者・市民・団体		取組期間	R7～16		
□ 国内外へ向けての「足袋文化」の情報発信が不足している	5 足袋文化についての情報発信を行い、国内外にPRする					
□ 「足袋文化」を核としてシビックプライドへつなげることが必要	6 「足袋文化」を核としてシビックプライドを醸成する					
「足袋のまち」の文化財については、基本的な保存と活用の方針は、「日本遺産を通じた地域活性化計画」を踏まえたものとする。						

「足袋のまち」の文化財については、基本的な保存と活用の方針は、「日本遺産を通じた地域活性化計画」を踏まえたものとする。

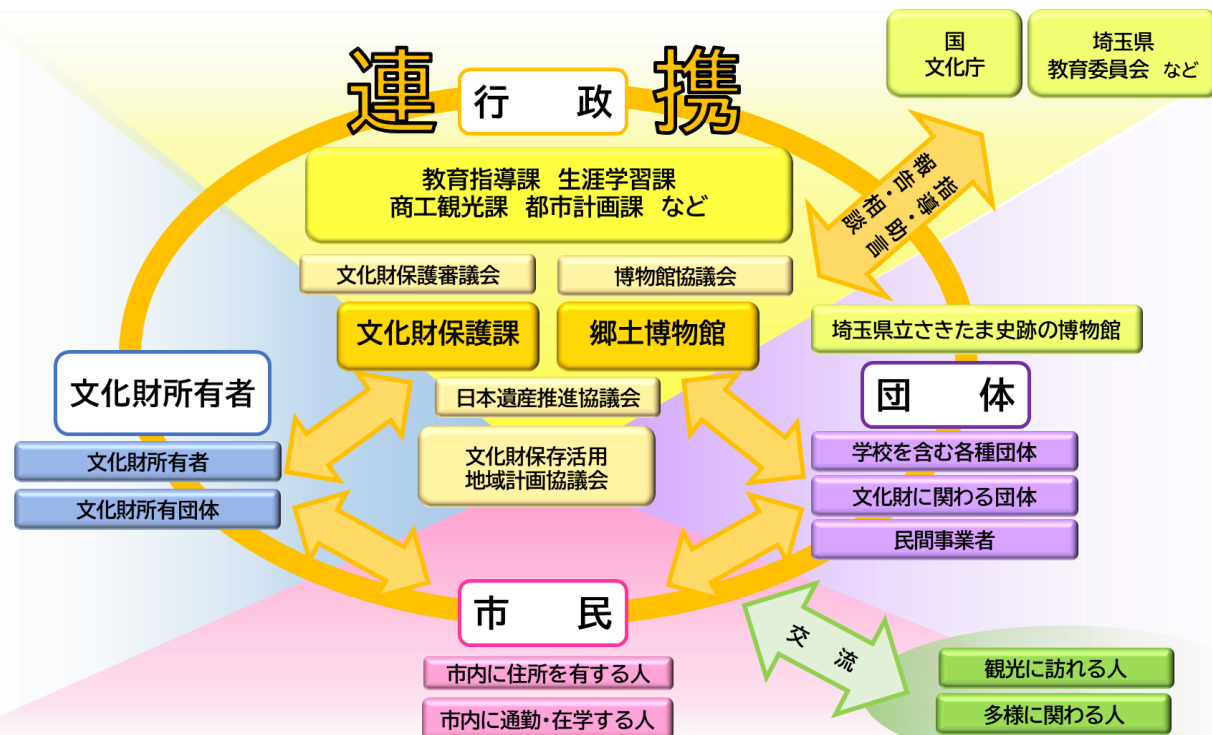
文化財の保存・活用の推進

本計画の推進にあたっては、関係する行政関係部局・市民・各団体等と連携・調整を図り、相互の取組の共有・調整を行う。文化財保護課・郷土博物館を中心として、行政と市民と一緒に文化財に関わっていくための体制づくりを基本とする。

【本市の特徴】

- 市立である郷土博物館の他、さきたま史跡の博物館、NPO法人運営の足袋とくらの博物館などの展示収蔵施設がある点
- 埼玉古墳群、忍城などの観光拠点でもある文化財が所在している点

こうした環境を活かし、市外から本市にかかわる人々とも多面的に連携をはかり、文化財の保存・活用を図っていく必要がある。



文化財の保存と活用における推進体制

計画の進捗管理と自己評価の方法

本計画の期間は10年と長期にわたるため、計画期間中であっても昨今の急激な社会情勢の変化や文化財の取り巻く状況の変化に応じて、適宜計画を見直していくことが重要になる。このため、PDCAサイクルによる計画の進行管理を図り、行田市文化財保存活用地域計画協議会において、毎年度取組実績及び計画の進捗状況を報告し、情報共有を行う。

さらに前期(令和7<2025>～令和10<2028>年度)・中期(令和11<2029>年度～令和13(令和<2031>))・後期(令和14年度～令和16年度)の3期の終了年度ごとに自己評価を行い、計画の進捗状況を把握する。行田市文化財保存活用地域計画協議会に自己評価を報告し、意見・指導・助言を踏まえて、総合的に検証を加え、適宜計画を改善していく。

なお、計画期間の変更、市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を与えるおそれのある変更、本計画の実施に支障が生じるおそれのある変更を行う場合には、文化庁長官による変更の認定を受けるものとする。前述以外の軽微な変更を行った場合、埼玉県教育委員会及び文化庁へ情報提供する。

【行田市文化財保存活用地域計画に関するお問合せ】

行田市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
〒361-0052
埼玉県行田市本丸2-20
電話 048-553-3581
FAX 048-556-0770
E-mail bunka@city.gyoda.lg.jp